

会議の概要

1 会議名 (審議会等名)	宝塚市エイジフレンドリーシティ行動計画策定委員会 (平成 28 年度第 2 回)
2 開催日時	平成 28 年 7 月 1 日 9:30~11:30
3 開催場所	研修室
4 出席委員	藤田綾子、岡絵理子、金岡重子、溝口由加子、木本丈志、新谷俊廣、 多田嘉則、戸川進、村上健一
5 公開不可・一部不可 の場合の理由	
6 傍聴者数	1 人
7 公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可
8 議題及び結果の概要	<p>1 協議事項</p> <p>(1) 行動計画の全体の構成について (委員長) まず、全体構成について(行動計画新旧対照表を用いて)の変更について確認していただきたい。 (委員) 組み換えはしたということだが、5 章までは今までの内容から変更があったのか。 (事務局) 1~3 章までについては細部の文言修正程度の変更を加えている。4 章は前回まで理念と指針しか書いていなかったが、総論は総論、各論は各論とそれぞれがばらばらになっていたのをそれを繋ぐ章として位置づけた。また、対象者がわからないというお話もあったので、基本方針や対象者等、表記を追加した。</p> <p>(2) 各章の検討について P.2 について (委員) 各計画がエイジフレンドリーシティ行動計画にぶら下がっているように見える。「第 5 次総合計画・後期基本計画」と「重点目標⑤ 超高齢社会に対応したまちづくり エイジフレンドリーシティ宝塚行動計画」は一つのくくりでまとめた方がよいのではないかと。 (事務局) そういった指摘は庁内検討会でもあった。 (委員長) のご提案のように修正していただければと思う。 (委員) 重点目標⑤の内容を教えてください。 (委員長) 「超高齢社会への対応においては医療・福祉の分野だけでなく、住居、交通、防犯・雇用等の分野でも従来の年齢構成を前提とした都市政策を見直すとともに、平均寿命の延伸にとともに高齢者がコミュニティの中で居場所を見つけ生きがいをもって健康に暮らす仕組みづくりが必要です。WHO は世界的な高齢化と都市化に対応するために社会システムを高齢化に対応させる高齢者が社会参加するというエイジフレンドリーシティのプロジェクトを提唱しています。本市においては全庁的なエイジフレンドリーシティの取組を進めることにより、活力のある、明るい、希望に満ちた超高齢社会づくりを目指します。併せて高齢者が住み慣れた地域</p>

で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムを構築します」としか書いていないが、重点目標として、後期計画の中で追加されている。それを受けてこの行動計画をつくっているという形である。

(委員) 細かいことだが、「観光・文化・産業（宝塚市農業振興計画など）」とあるが、なぜ農業振興計画だけなのか。

(事務局) ここまで中の計画を細かく見ていなかった。

(委員) 以前の計画案には、観光集客計画や文化芸術振興計画等、の計画を前面に出していた。

(委員長) もう少し具体的なものを付け加えてもらった方がよいと思う。

(事務局) また全体を見直して、追記したい。

P. 7について

(委員) 次の介護保険事業計画はいつから始まるのか。

(事務局) 2030年である。

(委員) こちらでも7ブロックでは宝塚市全体が掘めていない、細分化して小エリアでやってくださいという、という意見はある。「もう少し地域特性が出てくるような調査内容としてください」といったことは入れておいてもよいと思う。P. 7(4)「高齢者のみの世帯の推移」で平成22年であるのでこの数値になっているが、近年、全体的に言われているのが高齢者の独居率は25%を超えている。これでは古いデータになっている。平成27年度の国勢調査では出てきていないのか。

(事務局) 平成27年度のデータを調べたいと思う。

P. 8について

(委員) 図中の各地区ブロックの中の「認定率」はこれだけではわかりにくいので、「要介護認定率」とした方がよいと思う。難しければ欄外に注釈をつけて説明するのもいい。

P. 9について

(委員) 2行目に『「逆瀬台小学校まちづくり協議会」は高齢化率40.9%』との記載があるが、逆瀬台は老人施設があるという要因もあるので他の地域も並記してはどうか。

(事務局) 表現を見直したい。

(委員長) 抽出化も含めて検討していただきたい。

(委員) このページの意識調査では、「高齢者の意識と活動状況」としているが、健康な高齢者全体の活動状況を表したものではないと思う。認知症の方はアンケートに答えてもらえない。アンケートに答えられる人だけが答えているので、その点を一言入れていただければと思う。

	<p>(委員長) 対象者がどういった人々であるかを調べていただきたい。</p> <p>P. 11 について</p> <p>(委員) この意識調査は若い人を対象にしたものであり、高齢者の意識調査ではない。あと、他のグラフと比べてこのグラフは囲み線がない。</p> <p>(委員長) この労働実態調査報告書における対象者について調べていただきたい。</p> <p>P. 13 について</p> <p>(委員) 「キャッチフレーズ」という言葉を入れられない方がいいと思う。 「本行動計画の流れ」の図中の「宝塚市の物理的 社会的環境」という欄は「物理的環境 社会的環境」とした方がよい。</p> <p>P. 14 について</p> <p>(委員) 「…が、8割を占める健康で日常生活が自立している高齢者への対応は遅れています。」は、他の表現か削除してもよいのではないか。この下にこれからどうするかを記載しているので。</p> <p>(委員) 「宝塚市高齢者福祉計画・第6期宝塚市介護保険事業計画（ゴールドプラン 21 宝塚）」「健康宝塚 21」等あるが、各計画の中でのエイジフレンドリーシティ行動計画の位置づけはどうか。補っているのか、一緒にやっていくものか、図示されて関係性が見えるようになっていけばいいと思う。</p> <p>(委員長) 高齢者対策というのはこういったことが必要であり、その中で「健康宝塚 21」はここをやっている、エイジフレンドリーシティ行動計画はここを取組む、といった構成がよいかもしれない。</p> <p>P. 15 について</p> <p>(委員) 指針1だが、「仲間」はともかく、「こと」と「モノ」とは何のことを言っているのか。指針1～3が4章の第1～8分野のどれを指しているのかが気になる。「仲間」は第4・6分野だと思うが、「こと」はお祭りや企画の話であると思うが、本当にほしいのは「場」である。</p> <p>(委員長) 「仲間」は人のこと、「モノ」はベンチがある、といった場所のこと、「こと」はイベントに加えて社会参加やチャンスである。場所はこの場合、「モノ」の中に入っている。もしわかりづらかったら、「人・もの・こと」というのはよく言う。</p> <p>(委員) 第8分野の言葉を使いながら3つの言葉が説明できればと思う。上に言葉があって、その言葉が何を指しているのかの説明があればこれが一人歩きすることはないと思う。</p> <p>(委員) 各指針の対応する分野を示してほしい。</p> <p>(事務局) 指針1は1～3分野のハード面である。仲間というところでは</p>
--	---

4、6分野もかかってくる。指針2は、主に5、8分野である。安心安全なので1、2分野もかかってくる。差別がないというところで情報の話も入ってくる。指針3は4、6分野の社会とのかかわりがメインになると考えて記載している。

P.17について

(委員) 協働の図についてだが、白黒の印刷であるせいか各領域の境がわかりにくい。

P.20について

(委員長) 行政でなく市民が取組んだ例をここに写真付きで並べることができればと思う。

(委員) 書き方の問題であるが、第1分野の現状であれば「市民1人あたり3.97㎡である」と数字があるが、例えば、阪急であればこういうことをやっている、市民はオープンガーデンをやっていますとか、こういうことが現状行われているという書き方をしてはどうか。もう一つは目標があればいいと思う。一つサンプル的に例示してあげてはどうか。

(委員長) 私のイメージでは、下部に空白があるので、荒れ果てた公園を地域の人だけで綺麗にされている中山台等、そういった事例をここに載せていければと思う。市民の取組によって綺麗になった公園のビフォーアフター等のような形で載せることができたらと思う。行政よりも市民の力で行われたものの例示をこの中に写真を組み込んでいければと思う。「行政がやるものでなく私たちがやるものですよ」という例示をここに示すことができればと思う。そのような例が市内には沢山あると思う。

(委員) このような数字を出すのであればそれを市がどう評価しているのかを記載しないといけないと思う。「阪神間の自治体の中では狭い面積しかありません」と。なぜかという、都市公園はほとんど無く、開発に伴う庭球公園ばかりであるからである。子どもがボールを遊びができる公園の設置を市長が取組んでいる。

(委員) 個人が提供されている土地はあるのか。

(委員) それはない。道路整備の時に段ちが残るが、宝塚市ではそれをベンチでなく、ミニガーデンにしてきた。

(委員) 市民の安全安心の分野であれば、今年度予算を計上している防犯カメラの設置補助も入れておいたらどうか。

(委員) 全体的な話であるがチェックリストをいくら議論しても完成形はできあがらないと思う。WHOの出しているチェックリストは参考程度に受け取っていいと思う。行政の方でどういうことをやっているというを書かれているが、これは協働の取組だけでいいと思う。いくら公園があっても誰も行っていない公園もあるので、どう使うかの時代に入っている。協働でどうやって公園やトイレを

使っているか等を示すといいと思う。むしろ第5章のところで、第1～8分野を提案する部会とチェックする部会をつくれればいいと思う。何㎡でチェックする時代ではなく、市民がどう思っているかが重要なので、8つほど部会を作って提案も市民がするし、チェックも市民がする体制をつくるという姿勢を第5章で書いた方がいいと思う。その人を集めることだけで十分広報にもなるし、エイジフレンドリーについてどんどん提案してもらった方がいいと思う。チェックリストはどんどん変わると思う自分たちが提案したことを自分たちでチェックしないといけないので、その時に市にやってもらうという陳情型でないやり方にそこで取組めば、宝塚市の市民自治も改善すると思う。5章のところもどうしても「市はここまでやりますけど」という言い方になってしまっている。そうではなく、ここには市民や高齢者も入っていただいてチェック部隊を作られるというのはどうか。

(委員長) ここをどうするかというところだが、第5章は、「行政としての取組」と、二番目に「協働としての取組」というのを作る。「行政としての取組」はWHOがこれは最低限必要であるのでチェックしなければならないとしているものである。もう一つは「協働としての取組」が8分野のチェックする部会をつくって、市民の声をそのような形で反映していく体制をつくるということで、「その1～」「その2～」「その3～」と箇条書きすれば形になると思う。

第5章は再度委員会で提案させていただく。第4章は先程の意見では「現状」はいらぬという意見であった。

(委員) 市の方が、協働でやっていくと言っている、今やっていることのいいことと、既に起こっている現状をこの章に挿絵なども入れながら楽しく記載すれば、それを見ながら考えるようになっていて、チェックリストは参考みないなたちで、「WHOではこんな項目がありますよ」と挙げて、最後の何ページかを見ながら部会が考えるようになればよいと思う。「ここまでは出来ているよね」とか。

P. 19について

(委員) 説明文がわかりにくいと思う。チェックリストはこれまで議論された趣旨を目安にして「協働で取組んでいきましょう」と訴えかけるようにした方がいい。

2 その他

次回の開催日程

次回の日程は、8月末を目途に、事務局より連絡することとなった。